

総論

須藤 寛史¹・紺谷 亮²

General Remarks

Hiroshi SUDO, Ryoichi KONTANI

1. はじめに

紺谷は1986-1997年にかけてアンカラ大学に留学した。その際、キュルテペ (Kultepe) 遺跡の発掘を率いてきたタフシン・オズギュッチ (Tahsin Özgüç)、クトウル・エムレ (Kutlu Emre) に師事し、同遺跡の調査に参加してきた。帰国後、アンカラ大学大学院で同僚であったフィクリ・クラックオウル (Fikri Kulakoğlu) (2006年からキュルテペ遺跡発掘隊長) と紺谷との間で、カイセリ (Kayseri) 県内での考古学調査の実施についての計画が話し合われた。そこで紺谷は日本人研究者を中心に調査チームを組織し、まずはカイセリ県内の遺跡情報を整備する踏査を行うこととした。この調査を、トルコ共和国カイセリ県遺跡調査プロジェクト (Kayseri Arkeolojik Yüzey Araştırması Projesi: 以下 KAYAP) と名付け、2008年から遺跡踏査を開始した。KAYAP は2013年まで6シーズンにわたって実施され、124の遺跡を記録した。

KAYAP による所見の一つに、キュルテペ遺跡及びカイセリ県内では明確ではなかった銅石器時代の資料を一定数確認できたことがある。そこで2015年からはキュルテペ遺跡において、キュルテペ遺跡の起源とその発展過程を探ることを目的とする発掘調査を開始した。その結果、これまでのキュルテペ遺跡の発掘では地下水の影響でアプローチできなかった、銅石器時代の層位の存在を有望視できるようになった。

本特集では、KAYAP の成果と現在進行中であるキュルテペ遺跡北トレンチの発掘調査で得られた所見を報告する。

2. KAYAP 以前のカイセリ県における考古学調査

カイセリ県における科学的な考古学調査は、粘土板文書の発見をきっかけとするキュルテペ遺跡の発掘調査に始まったことはよく知られているところである。タフシン・オズギュッチが率いたアンカラ大学による発掘調査は1948年に始まり、クトウル・エムレ、フィクリ・クラックオウルに引き継がれ、現在まで続いている。

カイセリ県における地域的な調査の嚆矢としては、

1947年のアンカラ大学によるエルジエス (Erciyes) 山南麓の調査が挙げられる。そこではフラクティン遺跡 (Fraktin Höyük, KAYAP 登録遺跡番号 09-03) の発掘とヒッタイト時代の岩壁浮彫りの分布調査が実施された (Özgüç 1948a, 1948b)。その後 T. オズギュッチと K. エムレは、キュルテペ遺跡の東側で、クルル (Kululu, KAYAP 13-12)、スルタンハヌ (Sultanhanı, KAYAP 08-03)、ヤッスダー (Yassıdağı, KAYAP 08-02) の発掘調査を行った (Özgüç 1971)。1980年代に入り、K. エムレは東カッパドキア踏査プロジェクト (Doğu Kapadokya Araştırma Projesi, 1987-1989年) を組織し、ヒッタイトの未完成岩壁碑文の探索を行った。またこの調査の行程で訪れたカラクユ (Karakuyu, KAYAP 12-12) においてヒッタイト時代のダムを発見し、発掘調査を行った (Emre 1993)。これまでの調査で確認された遺跡は紀元前3千年紀以降のものであったが、この東カッパドキア・プロジェクトにおいて、カイセリ県東端部で銅石器時代と思われる土器が採取されている (Yıldırım 1998)。A. S. ギュネリ (Güneri) は1985年に中央アナトリア遺丘調査 (Orta Anadolu Höyükleri Projesi) を開始し、コンヤ (Konya) 県、アンカラ (Ankara) 県に続き、1998年、プロジェクトの最後のシーズンにカイセリ県を踏査している (Güneri 2005)。このプロジェクトは紀元前2千年紀をターゲットとし、特にキュルテペ遺跡のようなカールムのある都市遺跡の探索を狙いとしていた。カイセリ県では2つの遺跡について、遺丘の大きさと土器の類似から、キュルテペ遺跡のような交易都市であった可能性を指摘している (Güneri 2005: 85)。2002-2006年にはチュクロヴァ大学がキズワトナ調査 (Kizzuwatna Araştırmaları) と称するカッパドキア地方とキリキア地方の遺跡踏査を実施した。この調査は古代キズワトナ王国の範囲を精査することを目的とし、アダナ (Adana) 県北半からカイセリ県南半 (サルズ [Sarı], デヴェリ [Develi]、ヤフヤル [Yahyalı]) の範囲が踏査された (Girginer et al. 2008)。また日本の中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所は、カマン・カレホユック (Kaman Kalehöyük) 遺跡、ビュクリュカレ (Büklükale) 遺

¹岡山市立オリエント美術館 Okayama Orient Museum

²ノートルダム清心女子大学文学部 Faculty of Literature, Notre Dame Seishin University

跡、ヤッスホユック (Yassihöyük) 遺跡の発掘と並行して、1986 年から現在に至るまで中央アナトリア全域で遺跡踏査を継続し、これまで約 1500 件の遺跡を記録している。1988-1990 年のシーズンにカイセリ県の西半で踏査を行っている (Mori and Omura 1990; Omura 1991, 1992)。

3. KAYAP の目的と成果

トルコ共和国における遺跡踏査は全国で膨大な件数が行われているが、カイセリ県内での踏査はそれほど多くはない。しかも調査範囲に関しては、そもそもカイセリ県を中心に据えたものではなく、カイセリ県周辺の踏査の中で、一部カイセリ県にも範囲が及ぶというものであった。また調査課題は主に紀元前 2 千年紀の交通路の再検討や、ヒッタイトの勢力範囲の追跡といった特定のテーマに限定されたものであった。したがってカイセリ県における遺跡情報は、目的や方法が異なる複数の調査の部分的な情報をつなぎ合わせるような状態であった。

そこで KAYAP では、踏査エリアをカイセリ県全域に設定し、先行研究による踏査遺跡も再度訪れながら、一貫したデータを取得し、カイセリ県における考古学的情報を整備することを第一の目的とした。第二に、KAYAP による一貫したデータに基づき、カイセリ県のセトルメント・パターンの変遷を観察すること、そして最後に、キュルテペ遺跡が中期青銅器時代にメソポタミアなど周辺地域との国際交易拠点都市カニシュ (Kanesh) として繁栄した背景を探ることを目指した。

冒頭にも述べたとおり、2008-2013 年の 6 シーズンでカイセリ県全域を踏査し、124 の遺跡を記録した。本特集、須藤の論考では KAYAP による主な調査成果について報告されている。一つはカイセリ県内における遺跡数の変化を確認したことである。特に、キュルテペ遺跡などの交易都市が栄えたはずの中期青銅器時代に遺跡数が減る現象を観察したことは、キュルテペ遺跡の都市化を探る上でも、今後その背景をより詳しく追求していく必要がある。次にカイセリ県内ではこれまで明確に存在が確認されていなかった銅器時代の遺跡を複数確認したことである。そして三つ目としてキュルテペ遺跡と KAYAP 踏査遺跡において南東アナトリア産と思われるカナアン石刃について報告された。従来知られていたカナアン石刃の分布範囲を超える地域での発見は、前期青銅器時代における地域間交流のあり方を考察する新たな視点を提供したと言える。

4. キュルテペ遺跡北トレンチの発掘

KAYAP において、カイセリ県内に銅器時代の遺跡の存在が明らかとなったことから、キュルテペ遺跡の成立を探るべく、F. クラックオウルと紺谷はキュルテペ遺跡遺丘部の北辺において、2015 年から発掘調査を開始した。この発掘調査の目的は、キュルテペ遺跡遺丘部での、住民の活動域の範囲を探ることと、これまでの数十年に及ぶ同遺跡の調査では地下水の湧出などにより十分な発掘調査が及んでいなかった前期青銅器時代前半以前の層位の確実な検出を目指し、キュルテペ遺跡の成立当初の状況を探ることである。

KAYAP で採集した土器片の中に器面の内外面がそれぞれ赤色と黒色の明瞭なコントラストをなす特徴的な磨研土器＝赤黒土器を一定数確認した。これについて中央・北東・南東アナトリアでの報告例との型式学的比較や土器片胎土中の炭化物による年代測定により、銅器時代に比定できる見通しを得ていた。山口論考では、2015 年からのキュルテペ北トレンチでの発掘により、赤黒土器の出現から消滅に至る経緯を層位的に捉えることが可能となり、またこのことにより周辺諸地域との関係性の変化についても議論できる可能性を示した。

キュルテペ遺跡の遺丘部中央におけるアンカラ大学による近年の発掘調査で、前期青銅器時代Ⅲ期の初頭に当たる第 13 層で大型公共建築物が確認された (Kulakoğlu et al. 2013; Kulakoğlu 2015, 2017)。またメソポタミアとの交流関係を示唆する円筒印章が捺された封泥も発見された (Kulakoğlu and Öztürk 2015)。これらのことから、キュルテペ遺跡はアッシリア・コロニー時代に先立って、前期青銅器時代から都市的な拠点集落となっていた可能性が高い。下釜論考はキュルテペ遺跡北トレンチの前期青銅器時代層の土器を定量的・層位的に分析し、土器の製法の変遷とキュルテペ遺跡の都市化について論じた。

5. 地理学的調査

考古学的調査と合わせて、カイセリ県の自然地理的な背景を評価するための調査も実施した。カイセリ県の精細な地形図の作成や水系を精査し、地形学的に四つのエリアに分類したことは一つの成果である。この地形学的な評価と遺跡分布の関係については、今後検討すべきテーマである (本特集須藤論考参照)。地理調査を担当した早川は、本特集論考で、キュルテペ遺跡の立地について、自然地理的に説明した。さらに、紀元前 4 千年紀に巨大な都市遺跡が発達した北メソポタミアと、キュルテペ遺跡の立地するカイセリ盆地の地形学的な特徴を、数量的に示した。そこでは平坦でジオ多様性 (地形、地質、土壌など非生物事象の多様

性)に乏しい北メソポタミアと、起伏が激しくジオ多様性に富むカイセリ盆地という特徴が明瞭に示された。自然地理環境の大きく異なる地域での都市の成立のメカニズムを比較・検討する上で、大いに考慮すべき分析である。

6. キュルテペの都市性

キュルテペ遺跡は中期青銅器時代のアッシリア・コロニー時代だけではなく、前期青銅器時代から、カイセリ地域の拠点都市として突出した存在であったことが明らかになりつつある。しかしこれまで明らかになっていた遺跡の範囲からすると、メソポタミアに匹敵するような巨大都市の規模ではない。この点について本特集紺谷・クラックオウル論考では、最近のGPR探査の結果などから、キュルテペ遺跡は現在露出しているよりも遥かに広く、最大300haを超える巨大都市であった可能性を示した。キュルテペ遺跡周辺に巨大都市人口を賄える広い農地は確保しにくく、また河川交通も発達しにくい。紺谷・クラックオウルは紀元前2千年紀に巨大都市に発達したキュルテペの穀物供給源として、カイセリ県北西のボアズリヤン(Boğazlıyan)平原を候補として挙げている。また近年カイセリ県内で発見されたスズ採掘遺跡を取り上げ、キュルテペの都市化の背景を穀物生産力以外の部分に求めようとしている。

7. おわりに

以上、本特集の論考はキュルテペ遺跡にまつわるこれまでの調査成果の一部を論じたものである。仮説的な部分も多いが、現在進めている発掘調査による層位的なデータで検証されていくことが期待される。本特集が、キュルテペ遺跡に関する幅広い議論の契機となれば幸いである。

参考文献

- Emre, K. 1993 The Hittite Dam of Karakuyu. *Bulletin of the Middle Eastern Culture Center in Japan* 7: 1-42.
- Girginer, K. S., H. F. Özdemir and B. Kaplan 2002-2006 Yılları Kapadokya ve Kilikya Yüzey Araştırmaları: Genel Bir Değerlendirme. In B. Can and M. Işıklı (eds.), *Doğudan Yükselen Işık: Arkeoloji Yazıları*, 231-266. Istanbul, Zero Pros. Ltd..
- Güneri, A. S. 2005 Orta Anadolu Höyükleri 1998 Yılı Çalışmaları: Kayseri'de Arkeolojik Keşifler. *Arkeoloji, Anadolu & Avrasya* 1: 47-86.
- Kulakoğlu, F. 2015 Current Research at Kültepe. In F. Kulakoğlu and C. Michel (eds.), *Proceedings of the 1st Kültepe International Meeting, Kültepe, September 19-23, 2013, Studies Dedicated to Kutlu Emre (Kültepe International Meeting 1)*, 9-21.
- Subartu XXXV. Turnhout, Brepols Publishers.
- Kulakoğlu, F. 2017 Early Bronze Age Monumental Structures at Kültepe. In F. Kulakoğlu and G. Barjamovic (eds.), *Movement, Resources, Interaction (Kültepe International Meeting 2)*, 217-226. Subartu XXXIX. Turnhout, Brepols Publishers.
- Kulakoğlu, F., K. Emre, R. Kontani, S. Ezer and G. Öztürk 2013 Kültepe-Kaniş, Turkey: Preliminary Report on the 2012 Excavations. 『岡山市立オリエント美術館研究紀要』27巻 43-50頁。
- Kulakoğlu, F. and G. Öztürk 2015 New Evidence for International Trade in Bronze Age Central Anatolia: Recently Discovered Bullae at Kültepe-Kanesh. *Antiquity Project Gallery* 89(343). <http://antiquity.ac.uk/projgall/kulakoglu343> (2021年12月15日閲覧)
- Mori, M. and S. Omura 1990 1988 Kırşehir, Yozgat ve Nevşehir illeri Yüzey Araştırmaları. In 7. *Araştırma Sonuçları Toplantısı*, 295-310. Ankara, Ankara Üniversitesi Basımevi.
- Omura, S. 1991 1989 Yılı Kırşehir, Yozgat, Nevşehir, Aksaray illeri Sınırları içinde Yürütülen Yüzey Araştırmaları. In 8. *Araştırma Sonuçları Toplantısı*, 69-89. Ankara, Ankara Üniversitesi Basımevi.
- Omura, S. 1992 1990 Yılı Orta Anadolu'da Yürütülen Yüzey Araştırmaları. In 9. *Araştırma Sonuçları Toplantısı*, 541-560. Ankara, Ankara Üniversitesi Basımevi.
- Özgüç, T. 1948a Ankara Üniversitesi Adına Yapılan Fraktin Kazısı ve Tetkik Gezileri. *Belleten* 45/12: 260-266.
- Özgüç, T. 1948b Excavations at Fraktin Near Develi and Research in Anti-Taurus Region. *Belleten* 45/12: 266-267.
- Özgüç, T. 1971 *Demir Devrinde Kültepe ve Civarı (Kültepe and its Vicinity in the Iron Age)*. Türk Tarih Kurumu Yayınları 29. Ankara, Türk Tarih Kurumu Basımevi.
- Yıldırım, T. 1998 Doğu Kapadokya Bölgesi Yüzey Araştırmalarında Derlenen Seramikler. *Ankara Üniversitesi Dil ve Tarih-Coğrafya Fakültesi Dergisi* 38(1-2): 249-270.
- 日本隊によるカイセリ県および
キュルテペ遺跡調査に関する発表論文
- Hayakawa, Y. S. 2016 Archaeological Sites and Natural Hazards in Kayseri (Turkey). In *2016 International Geographical Union Geomorphology and Society Commission, Island Study Commission, and Political Geography Joint Symposium*. Taipei.
- Hayakawa, Y. S., H. Tsumura, R. Kontani and F. Kulakoğlu 2009 Rapid Topographic Mapping System and its Application to Geoarchaeological Survey in Kayseri Region, Central Turkey. In *Conference Abstracts, 7th International Conference on Geomorphology (CD-ROM)*, 740. Melbourne.
- Hayakawa, Y. S., R. Kontani, H. Sudo, Y. Yamaguchi and F. Kulakoğlu 2011 Geospatial Analysis on Topography and Archaeological Sites in Kayseri, Turkey: A Preliminary Result. In *Abstracts, Japan Geoscience Union International Meeting*, HTT005-P06_E. Makuhari.
- Hayakawa, Y. S., H. Obanawa, R. Naruhashi, H. Yoshida,

- M. Zaiki, R. Kontani, H. Sudo, T. Odaka, Y. Yamaguchi and F. Kulakoğlu 2014 Spatial Analysis of Archaeological Sites and Landforms in Kayseri, Central Turkey Using Multiscale Topographic Data. In *Abstracts, Japan Geoscience Union International Meeting 2014*, HTT07-P01. Yokohama.
- Hayakawa, Y. S., H. Obanawa, H. Yoshida, R. Naruhashi, K. Okumura and M. Zaiki 2015 Geomorphology and Archaeology: Mapping Landforms around Archaeological Sites in Kayseri Region Using High-Definition Data. In *Abstracts, International Geographical Union Regional Conference 2015*, C12.41. Moscow.
- Hayakawa, Y. S., H. Obanawa, H. Yoshida, R. Naruhashi, K. Okumura, M. Zaiki and R. Kontani 2015 Mapping Surface Morphology and Outcrop Structures of Hummocks in Debris Avalanche Deposits Using Structure-from-Motion Multi-View Stereo Photogrammetry. In *XIX INQUA Congress*, T18-P06. Nagoya.
- Hayakawa, Y. S., H. Obanawa, H. Yoshida, R. Naruhashi, K. Okumura and M. Zaiki 2016 Morphological Analysis of Hummocks in Debris Avalanche Deposits Using UAS-derived High-definition Topographic Data. In *Geophysical Research Abstracts*, 18, EGU2016-2755. Vienna.
- Hayakawa, Y. S., H. Obanawa, H. Yoshida, R. Naruhashi, K. Okumura, M. Zaiki and R. Kontani 2016 Potential Risks of Natural Hazards in Kayseri Region, Central Turkey. In *Abstracts, 33rd International Geographical Congress 2016*. Beijing.
- Hayakawa, Y. S., H. Yoshida, H. Obanawa, R. Naruhashi, K. Okumura, M. Zaiki and R. Kontani 2018 Characteristics of Debris Avalanche Deposits Inferred from Source Volume Estimate and Hummock Morphology around Mt. Erciyes, Central Turkey. *Natural Hazards and Earth System Sciences* 18(2): 429-444.
- Kontani, R., H. Sudo, Y. Yamaguchi, Y. S. Hayakawa and T. Odaka 2014 An Archaeological Survey in the Vicinity of Kültepe, Kayseri Province, Turkey. In L. Atici, F. Kulakoğlu, G. Barjamovic and A. Fairbairn (eds.), *Current Research at Kültepe-Kanesh: An Interdisciplinary and Integrative Approach to Trade Networks, Internationalism, and Identity*, 95-106. The Journal of Cuneiform Studies Supplemental Series 4. Atlanta, Lockwood Press (the American Schools of Oriental Research).
- Kulakoğlu, F., K. Emre, R. Kontani, H. Tsumura and S. Ezer 2010 Kayseri Arkeolojik Yüzey Araştırması Projesi (KAYAP): 2008 Yılı Çalışmaları Sonuç Raporu. In H. Dönmes and C. Keskin (eds.), *27 Araştırma Sonuçları Toplantısı 3. Cilt*, 305-318. Ankara, İsmail Aygül Ofset Matbaacılık/San. Tic. Ltd. Şti.
- Kulakoğlu, F., K. Emre, R. Kontani and S. Ezer 2011 Kayseri Arkeolojik Yüzey Araştırmaları Projesi (KAYAP): 2009 Yılı Çalışmaları Sonuç Raporu. In A. N. Toy and C. Keskin (eds.), *28. Araştırma Sonuçları Toplantısı 3. Cilt*, 409-428. Ankara, Allâme/Tanıtım & Matbaacılık/Hizmetleri.
- Kulakoğlu, F., K. Emre, R. Kontani and S. Ezer 2012 Kayseri Arkeolojik Yüzey Araştırmaları Projesi (KAYAP): 2010 Yılı Çalışmaları. In Y. Hazırlayan and A. Özme (eds.), *29. Araştırma Sonuçları Toplantısı 3. Cilt*, 215-235. Ankara, İsmail Aygül Ofset Matbaacılık/San. Tic. Ltd. Şti.
- Kulakoğlu, F., R. Kontani, A. Uesugi, Y. Yamaguchi, K. Shimogama and M. Semmoto 2020 Preliminary Report of Excavations in the Northern Sector of Kültepe 2015-2017. In F. Kulakoğlu and C. Michel (eds.), *Integrative Approaches to the Archaeology and History of Kültepe-Kanesh (Kültepe International Meetings 3)*, 9-88. Subartu XLV. Turnhout, Brepols.
- Okumura, K., Y. S. Hayakawa, R. Kontani and F. Kulakoğlu 2016 Quaternary Activity of the Erciyes Fault Southeast of the Kayseri Basin, Turkey. In *Abstracts, American Geophysical Union, Fall Meeting 2016*, T41B-2918. San Francisco.
- Sudo, H. 2021 Canaanite Blades from Kültepe (Central Anatolia). In F. Kulakoğlu, G. Kryszat and C. Michel (eds.), *Cultural Exchanges and Current Research at Kültepe and its Surroundings (Kültepe International Meetings 4)*, 51-63. Subartu XLVI. Turnhout, Brepols.
- Sudo, H. (in press) Examination of the Painted Ware of Early Phases of Early Bronze Age in Central Anatolia, Collected by the *Kayseri Arkeolojik Yüzey Araştırması Projesi*. In Ç. Maner, M. Weeden, M. Omura and K. Matsumura (eds.), *It All Began with Stratigraphy and Chronology: Archaeology in Central Anatolia (Festschrift Dedicated to Sachihito Omura on his 75th Birthday)*. Wiesbaden, Harrassowitz Verlag.
- Sudo, H., Y. Yamaguchi and R. Kontani 2017 An Archaeological Assessment of the Kayseri Province during the Chalcolithic Period: New Evidence from the Archaeological Survey Project in Kayseri, Turkey (KAYAP). In F. Kulakoğlu and G. Barjamovic (eds.), *Movement, Resources, Interaction (Kültepe International Meeting 2)*, 227-242. Subartu XXXIX. Turnhout, Brepols.
- Yener, K. A., F. Kulakoğlu, E. Yazgan, R. Kontani, Y. S. Hayakawa, J. W. Lehner, G. Dardeniz, G. Öztürk, M. Johnson, E. Kaptan and A. Hacı 2015 New Tin Mines and Production Sites near Kültepe in Turkey: A Third-millennium BC Highland Production Model. *Antiquity* 89(345): 596-612.
- 奥村晃史・早川裕一・紺谷亮一 2016「トルコ・カイセリ盆地南東エルジェス断層の第四紀の活動」『Abstracts, Japan Geoscience Union International Meeting 2016』HQR15-12. 幕張。
- 紺谷亮一・K. エムレ・F. クラックオウル・津村宏臣 2009「トルコ共和国カイセリ県における考古的一般調査2008(プロジェクト名: KAYAP)」『ノートルダム清心女子大学紀要(文化学編)』33巻1号 37-46頁。
- 紺谷亮一・K. エムレ・F. クラックオウル・須藤寛史・山口雄治・津村宏臣・岸田徹・早川裕一 2010「エイリキョイ遺跡における考古地理学的調査—トルコ共和国カイセリ県における一般調査の一成果—」『岡山市立オリエンタ美術館研究紀要』24巻 91-108頁。
- 紺谷亮一・K. エムレ・F. クラックオウル・須藤寛史・早川裕一・山口雄治 2011「ヒッタイト文化の起源を探る—トル

- コ共和国カイセリ県一般調査 (KAYAP)、第3次調査 (2010年)』『平成22年度 考古学が語る古代オリエント 第18回西アジア発掘調査報告会報告集』94-99頁 日本西アジア考古学会。
- 紺谷亮一・K.エムレ・F.クラックオウル・須藤寛史・山口雄治・早川裕式 2011「トルコ共和国カイセリ県一般調査 (KAYAP) 概報—第3次調査 (2010年) と過去3シーズンのまとめ—」『岡山市立オリエント美術館研究紀要』25巻 15-29頁。
- 紺谷亮一・須藤寛史・早川裕式・山口雄治・F.クラックオウル・K.エムレ 2012「新たなアッシリア・コロニー時代の交易都市の発見—トルコ共和国カイセリ県遺跡踏査 (KAYAP) 第4次調査 (2011年) —」『平成23年度 考古学が語る古代オリエント 第19回西アジア発掘調査報告会報告集』101-106頁 日本西アジア考古学会。
- 紺谷亮一・須藤寛史・山口雄治・早川裕式・F.クラックオウル・K.エムレ・S.エゼル・G.オズトゥルク 2012「トルコ共和国カイセリ県遺跡調査プロジェクト (KAYAP) 第4次調査 (2011年) 概報」『岡山市立オリエント美術館研究紀要』26巻 41-62頁。
- 紺谷亮一・小高敬寛・須藤寛史・早川裕式・山口雄治・F.クラックオウル・K.エムレ 2013「中央アナトリアにおける青銅器時代の都市化—トルコ共和国カイセリ県遺跡踏査 (KAYAP) 第5次調査 (2012年) —」『平成24年度 考古学が語る古代オリエント 第20回西アジア発掘調査報告会報告集』66-71頁 日本西アジア考古学会。
- 紺谷亮一・小高敬寛・須藤寛史・早川裕式・山口雄治・F.クラックオウル・K.エムレ・S.エゼル・G.オズトゥルク 2013「トルコ共和国カイセリ県遺跡調査プロジェクト (KAYAP) 第5次調査 (2012年) 概報」『岡山市立オリエント美術館研究紀要』27巻 15-42頁。
- 紺谷亮一・小高敬寛・須藤寛史・早川裕式・F.クラックオウル・K.エムレ 2014「アッシリア・コロニー時代の交易ルートをトルコ共和国カイセリ県遺跡踏査 (KAYAP) 第6次調査 (2013年) —」『平成25年度 考古学が語る古代オリエント 第21回西アジア発掘調査報告会報告集』96-102頁 日本西アジア考古学会。
- 紺谷亮一・小高敬寛・須藤寛史・早川裕式・F.クラックオウル・K.エムレ・G.オズトゥルク 2014「トルコ共和国カイセリ県遺跡調査プロジェクト (KAYAP) 第6次調査 (2013年) 概報」『岡山市立オリエント美術館研究紀要』28巻 25-34頁。
- 紺谷亮一・上杉彰紀・F.クラックオウル・G.オズテュルク 2016「中央アナトリアにおける都市の起源を探る—キュルテベ遺跡北トレンチ発掘調査2015年—」『平成27年度 考古学が語る古代オリエント 第23回西アジア発掘調査報告会報告集』57-63頁 日本西アジア考古学会。
- 紺谷亮一・上杉彰紀・山口雄治・F.クラックオウル 2017「中央アナトリアにおける銅石器時代解明へ向けて—キュルテベ遺跡北トレンチ発掘調査2016年—」『平成28年度 考古学が語る古代オリエント 第24回西アジア発掘調査報告会報告集』80-85頁 日本西アジア考古学会。
- 紺谷亮一・上杉彰紀・山口雄治・下釜和也・千本真生・F.クラックオウル 2018「中央アナトリアにおける銅石器時代解明へ向けて—キュルテベ遺跡北トレンチ発掘調査2017年—」『平成29年度 考古学が語る古代オリエント 第25回西アジア発掘調査報告会報告集』34-38頁 日本西アジア考古学会。
- 紺谷亮一・山口雄治・下釜和也・F.クラックオウル 2019「中央アナトリアにおける銅石器時代解明へ向けて—キュルテベ遺跡北トレンチ発掘調査2018年—」『平成30年度 考古学が語る古代オリエント 第26回西アジア発掘調査報告会報告集』16-18頁 日本西アジア考古学会。
- 紺谷亮一・山口雄治・下釜和也・F.クラックオウル 2020「中央アナトリアにおける銅石器時代解明へ向けて—キュルテベ遺跡北トレンチ発掘調査2019年—」『令和元年度 考古学が語る古代オリエント 第27回西アジア発掘調査報告会報告集』49-51頁 日本西アジア考古学会。
- 紺谷亮一・山口雄治・F.クラックオウル 2021「中央アナトリアにおける銅石器時代解明へ向けて—キュルテベ遺跡北トレンチ、西トレンチ発掘調査 (2020年) —」『令和2年度 考古学が語る古代オリエント 第28回西アジア発掘調査報告会報告集』59-61頁 日本西アジア考古学会。
- 須藤寛史 2013「中央アナトリアの古代交易路を求めて—トルコ・カイセリ県の遺跡調査—」『ORIENTE』46号 4-9頁。
- 須藤寛史 2015「トルコ共和国カイセリ県の赤黒土器—紀元前4-3千年紀におけるカイセリ県の考古学的位置付け—」『岡山市立オリエント美術館研究紀要』29巻 14-29頁。
- 須藤寛史 2018「中央アナトリア、キュルテベ遺跡のカナアン石刃」『岡山市立オリエント美術館研究紀要』31巻 33-44頁。
- 早川裕式 2009「アナトリア高原の小起伏面とエルジエス火山 (トルコ共和国カイセリ県) (表紙写真・解説)」『地形』30巻4号。
- 早川裕式 2014「トルコ共和国中部、エルジエス火山の山頂とその直下に現存する氷河 (表紙写真・解説)」『地形』35巻4号。
- 早川裕式 2015「アナトリア高原中部における後期完新世の古環境マッピング—大規模災害リスク評価に向けて—」『国土地理協会第13回学術研究助成報告書』。
- 早川裕式・津村宏臣・紺谷亮一・フィクリ・クラックオウル 2009「LRF、DGPSによる高速地形測量システムを用いた地考古学調査：トルコ、カイセリ県における適用事例」『日本地球惑星科学連合2009年大会予稿集』X228-P002 幕張。
- 早川裕式・小花和宏之・吉田英嗣・鳴橋竜太郎・奥村晃史・財城真寿美 2015「トルコ・カイセリ県における遺跡周辺の地形情報の取得と解析」『Abstracts, Japan Geoscience Union International Meeting 2015』HTT32-03 幕張。
- 早川裕式・小花和宏之・吉田英嗣・鳴橋竜太郎・奥村晃史・財城真寿美 2015「遺跡周辺における高精細地形情報の取得と解析—トルコ中部カイセリ県を対象として—」『日本地理学会2015年春季学術大会発表要旨集』世田谷。
- 山口雄治 2015「トルコ共和国カイセリ県 セニル・スルトゥ、テクネカヤ・ホユック遺跡」『考古学研究』62巻3号 121-123頁。

